

報告書

東本大震災被災地福島県双葉郡^{ならはまち}檜葉町への先遣隊活動報告書

○先遣活動メンバー

富士常葉大学 田中 聡 教授

小千谷市

事務局（危機管理課）

係長 渡辺英明、主幹 大平 忍、主査 田邊正文

運転手 大淵孝行

○先遣活動先

福島県双葉郡檜葉町 檜葉町いわき出張所（災害対策本部）いわき市

福島県いわき市中央台飯野3丁目3-1

（いわき明星大学 大学会館内）

檜葉町管内 檜葉町役場周辺

○先遣活動の目的

ネットワークおぢやの非会員自治体である福島県檜葉町から被害認定調査業務の応援職員派遣の依頼を受け、派遣について了承したことに伴い、応援職員派遣のための打ち合わせと各種情報を収集することを目的として先遣活動を実施。

○応援職員派遣依頼の経緯

- ・福島第1原子力発電所の事故による警戒区域が解除され、避難指示解除準備区域に変更されたことに伴い、住宅応急修理制度や被災者生活再建支援制度の申請が開始されたことから、被害認定調査や被災証明書発行業務がこれから本格化する。また、民間保険会社の保険金申請に被災証明書が必要なケースが多く、住民から調査の依頼が多数寄せられている。
- ・檜葉町では既に数百件の調査申請がきており、現在建築士協会に委託し、週3日2班体制で調査を進めているが、調査を実施した件数分申請がきている状況で未調査件数が減らず、住民のニーズに対応できない状況である。
- ・上記のことから、期間を決めて集中的に調査を実施したいが、人員が不足しているため今回ネットワークおぢやに応援職員派遣を依頼。

○檜葉町の概況

- ・平成23年3月11日の東日本大震災で震度6強を観測。津波、地震被害で大きな被害を受け、加えて福島第1原子力発電所の事故により、立ち入りが制限され全住民が長期避難を余儀なくされている。
- ・庁舎機能は、いわき出張所（災害対策本部）と会津美里出張所（災害対策本部 会津美里出張所）に分散している。
- ・原発事故による立ち入り制限区域が避難指示解除準備区域に変更となったことにより、居住と

宿泊はできないが住民の行き来は自由となった。とはいえ、住民の出入りがほとんどなく発災からほとんど手つかず状態で復旧が進んでおらず、建物敷地や田畑には雑草が生い茂っている。

- ・ 檜葉町管内の放射線量は毎時 $0.18 \mu\text{Sv}$ ～ $1.65 \mu\text{Sv}$ (地上 1 メートル) となっており北に行くほど高くなっている。詳細は「広報ならは 10 月号」に記載されているとおり。(下記 URL 参照)

<http://www.naraha.net/wp-content/uploads/2012/10/広報ならは10月号.pdf>

- ・ その他檜葉町の災害対応等詳細は檜葉町 HP のとおり <http://www.naraha.net/>

○先遣活動経過報告

10月31日(水)

6:00 小千谷市役所出発

小千谷 IC～関越自動車道～北陸自動車道～磐越自動車道～常磐自動車道～
いわき中央 IC～国道 49 号線(平バイパス)～国道 6 号線(常磐バイパス)～
国道 26 号線(鹿島街道)

※高速道路は災害派遣等従事車両証明書により無料で通過可能

9:45 檜葉町いわき出張所到着(敷地放射線量毎時 $0.2 \mu\text{Sv}$)

○富士常葉大学 田中教授と合流

○檜葉町関係者にあいさつ

対応者 参事兼課長 松本氏

生活支援課 主幹兼課長補佐 磐城氏

生活支援課 係長 坂本氏

10:00 関係者による打ち合わせ(庁舎 2 階)

○打ち合わせ参加者

- ・ 上記 4 名 + 小千谷市 2 名 + 福島県建築士事務所協会 遠藤氏 計 7 名

○決定事項、確認事項

- ・ 派遣時期、期間は、住民からの立ち会いが必要なため、その日程調整等に時間を要することから、12/12(朝)～12/18(午前中)の 6.5 日間とする。

※日程調整及び調査に必要な調査票・平面図等は檜葉町が準備。

- ・ 調査方法

班体制

10 班体制(1 班 3 人体制 建築士(被害程度判定等)、ネットワーク会員
(調査票・平面図記入等)・檜葉町役場職員(写真撮影・住民対応等))

※1 班あたり 1 日 4 棟～5 棟 × 6.5 日 × 10 班 = 260 棟～325 棟

調査

内閣府「災害に係る住家の被害認定基準運用指針」に基づき 2 次調査(外部・内部調査)を建築士主導で木造住宅のみ実施する。

1 日の主な流れ(予定)

8:30 頃 檜葉町いわき出張所出発(檜葉町公用車で移動) →

9:00 頃 檜葉町役場到着(建築士と合流) → 調査開始 →

12:00 頃 檜葉町役場で昼食・休憩→ 13:00 頃 調査開始 →

16:00 頃 調査終了 檜葉町役場で調査票整理等

16:30 頃 檜葉町役場出発

17:00 頃 檜葉町いわき出張所到着（檜葉町公用車で移動）

- ・宿泊先は、明星大学会館内の宿泊施設（宿泊無料）かいわき駅周辺の宿泊施設
- ・派遣者決定後、檜葉町より派遣元自治体首長宛て派遣依頼文を発送する。

※派遣依頼文により高速道路の災害派遣等従事車両証明書を発行してもらえれば高速代は無料

- ・その他、檜葉町の現状や各種公的支援の申請状況等を確認

13:15 打ち合わせ終了・昼食

14:00 檜葉町いわき出張所（明星大学大学会館内）3F 宿泊棟視察

14:40 檜葉町いわき出張所出発 檜葉町視察へ

国道6号線を北上（常磐自動車道 いわき四倉 IC～広野 IC 工事のため通行止め）

15:20 檜葉町役場到着（檜葉町管内状況確認）

○檜葉町役場周辺状況確認

- ・役場は下水道が復旧しておらず水洗トイレ使用不可（敷地に仮設トイレあり）
- ・役場設置のモニタリングポスト放射線量 $0.236\mu\text{Sv}$ （高さ1m）
- ・檜葉町管内の住宅はほとんどが瓦屋根で瓦のズレによる雨漏り防止のため、ブルーシート等で屋根を覆っている住宅が多い。
- ・コンクリート舗装していない敷地や田畑には「セイタカアワダチソウ」が生い茂っており、調査の妨げになる恐れあり。

○檜葉町担当者 坂本氏の住宅被害状況確認（上井出地区）

- ・瓦屋根の被害以外は雨漏り被害を除きほとんどない（一部損壊）
- ・建物内部は物が散乱している状況（ガラス片などもあり内履き等が必要）
- ※ほとんどの住宅がこういった状況と思われる。

- ・敷地近隣放射線量 $1\mu\text{Sv}$ （高さ1m）※当市持参のサーベイメーターで計測

○津波被害状況確認

16:30 檜葉町出発 帰路へ

17:15 いわき中央 IC～常磐自動車道～磐越自動車道～北陸自動車道～関越自動車道～小千谷 IC

21:30 小千谷市役所到着

参考事項

被害認定調査業務について檜葉町をはじめ福島県内の多くの自治体では、建築士協会に業務委託し調査を進めている。これは近年の大規模災害発生時ではあまり例がない。

メリット

- ・住民は建築のプロが調査しているということで安心感・信頼感を抱く。
- ・調査を実施している間、他業務に専念できる。(震災対応業務が円滑に進む)
- ・り災証明書の発行に向けた準備に専念できる。 など

デメリット

- ・り災証明書発行時の判定結果の説明の問題（調査員と発行者が違い詳しい説明ができない）
- ・建築士への調査方法（内閣府指針）の解説。（誰がするのか）
- ・建築士へのり災証明書と公的支援の関係性の説明が必要。（調査を進める上で重要） など

デメリットの部分クリアできれば、この手法は大変有効であり、各自治体の被害認定調査業務の体制整備の参考になるものと考えます。

○檜葉町の被害認定調査業務の詳細や各種震災対応について確認したい場合は、下記に主な震災対応部署の連絡先を記載しましたので直接連絡しご確認ください。参考になる話が聞けるものと思います。

- ①被害認定調査・り災証明書・被災者生活再建支援制度・原発賠償支援
生活支援課 損害賠償支援係 TEL 0246-46-2551（代表） 担当 坂本係長
- ②災害対策本部・防災原子力対策全般
環境防災課 TEL 0246-38-6983（直通）
- ③住宅応急修理制度
建設課建築係 TEL 0246-38-6994（直通）

応援職員派遣について

先遣活動での関係者打ち合わせでは応援職員派遣を実施することを前提に話を進めていたが、先遣活動実施後、11月2日（金）の夕方に檜葉町担当職員の坂本氏より、檜葉町で再度被害認定調査業務に対する人員確保について調整を図ったところ、建築士協会と檜葉町職員のみで対応が可能となり、今回はネットワークおぢや会員自治体職員による応援職員派遣の必要性がなくなった旨の連絡がはいった。

これを受け、会長、富士常葉大学、事務局で協議した結果、今回の応援職員派遣を見送ることとした。

記録写真



檜葉町いわき出張所（明星大学大学会館）



関係者打ち合わせ



3F 宿泊棟（1 人部屋）



3F 宿泊棟（左 共同トイレ・右 共同風呂）

中越大震災ネットワークおぢや



事務室の様子（左1階、右2階）※2フロアーに全課が配置されている。



檜葉町役場



檜葉町役場設置のモニタリングポスト（表示は $0.236 \mu\text{Sv}$ ）と仮設トイレ





全壊家屋



檜葉町坂本氏自宅被害状況



雨漏りの様子（天井）



内壁被害の様子（被害なし）



計測位置

当市持参のサーベイメーターで
放射線量を計測
(計測値 毎時 $0.98 \mu\text{Sv}$)





住宅敷地に雑草が生い茂った様子



セイタカアワダチソウ



天神岬スポーツ公園キャンプ場から木戸川を望む（上 奥に見える煙突は広野火力発電所）
津波被害箇所



H24. 11. 5 作成

作成者：中越大震災ネットワークおぢや
事務局員（小千谷市危機管理課） 田邊